

はしがき

待望の書『日本経営学会史』の刊行を心より喜びたい。本書は、日本経営学会創立90周年記念事業の一つとして、海道ノブチカ日本経営学会前理事長、片岡信之元理事長（『日本経営学会史』編集長）、小阪隆秀前常任理事（90周年記念事業実行委員会委員長）を中心に、多くの先学のご協力を仰ぎ取り組まれてきたものである。編集・刊行にご尽力いただいた皆様に謝意を表したい。

山本安次郎先生の『日本経営学五十年』（東洋経済新報社、1977年）との併読により日本経営学会の研究活動史の全貌が展望できるよう、第51回大会（1977年）から第90回大会（2016年）まで40年間を対象に編纂されている。

経営学は19世紀末に生成し、20世紀に大きく発展した。日本では日本経営学会の創設（1926年）に象徴されるように、経営学は「昭和の学問であり、最初は輸入の学問」（山本安次郎）であった。苦難の大戦期を経て、社会科学として市民権を獲得し、今日、グローバルに通用する経営学の創造が求められると同時に、日本に責任を負う経営学の発展も求められている。21世紀、日本経営学会はこうした期待に応えることができなければならないであろう。創設90周年を迎えた日本経営学会はこれまで以上に大きな成果が社会から期待される時期を迎えている。

『日本経営学会史』はこうした期待に応える礎石を提供するものである。日本における経営学研究90年の歴史に学ぶことなく、経営学研究の現状を分析し、未来を語ることはできないであろう。本書は日本における経営学の未来展望の基本文献に位置づけられるものであると確信している。経営学の過去・現在・未来に関心を抱く多くの人々に熟読されることを祈念したい。

日本経営学会理事長 百田義治